

全般季節予報支援資料 1か月予報

2026年5月28日

予報期間：5月30日～6月29日

この資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する季節予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

特に注意を要する事項

北・東日本では期間のはじめ、西日本では期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。

出現の可能性が最も大きい天候

北・東日本では、期間の前半は、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

西日本と沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

全般1か月予報(確率)

1か月		気温(%)	降水量(%)	日照時間(%)	降雪量(%)
		低並高	少並多	少並多	少並多
北日本	日本海側	20:30:50	30:40:30	30:40:30	
	太平洋側		30:40:30	30:40:30	
東日本	日本海側	10:30:60	30:40:30	30:30:40	
	太平洋側		20:40:40	30:30:40	
西日本	日本海側	10:20:70	30:40:30	30:30:40	
	太平洋側		20:40:40	30:40:30	
沖縄・奄美		10:30:60	30:30:40	30:40:30	

気温	1週目(%)	2週目(%)	3~4週目(%)
	低並高	低並高	低並高
北日本	10:10:80	20:50:30	20:40:40
東日本	10:10:80	20:40:40	10:30:60
西日本	10:10:80	10:30:60	10:30:60
沖縄・奄美	10:30:60	10:40:50	10:40:50

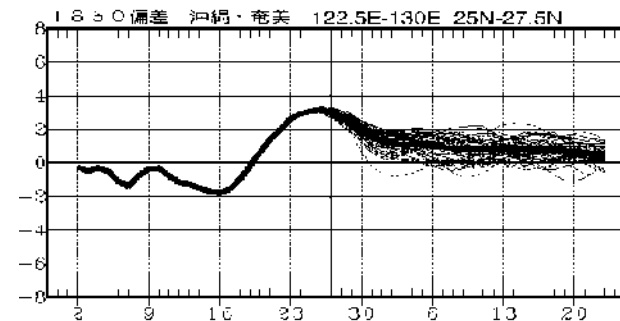
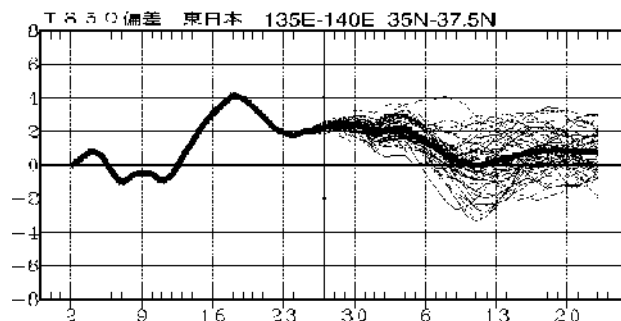
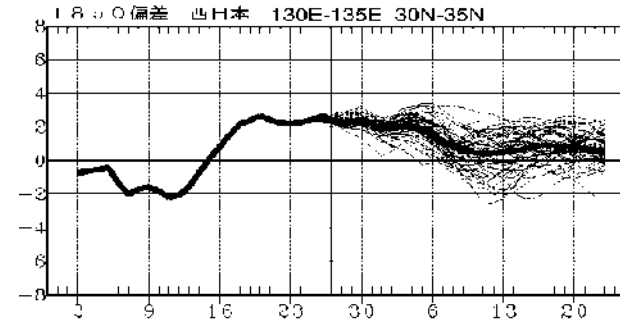
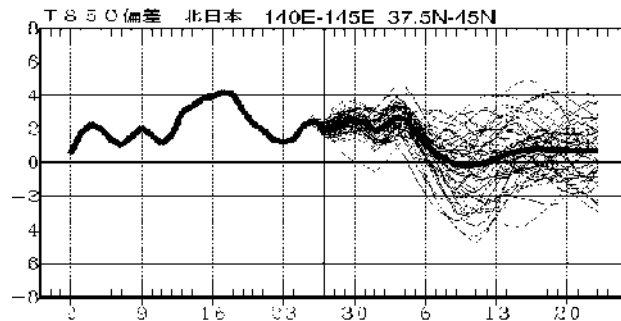
全般1か月予報のポイント

- 暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は全国的に高いでしょう。北・東日本では期間のはじめ、西日本では期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。
- 東・西日本太平洋側では、期間のはじめに台風第6号や湿った空気の影響を受けるため、向こう1か月の降水量は平年並か多いでしょう。

各週における天候のポイント(気温)

	1週目(5/30~6/5)	2週目(6/6~6/12)	3~4週目(6/13~6/26)
想定される天候(気温)	全国的に高温で、北・東・西日本ではかなりの高温。	北日本では平年並。東日本では高温傾向。西日本ではかなりの高温。沖縄・奄美では高温。	北日本で高温傾向、東・西日本と沖縄・奄美では高温。
根拠	全国的に暖かい空気に覆われやすく、日本の北の低気圧に向かって暖かい空気が流れ込みやすい。(P12,P13参照)。	西日本中心に高気圧縁辺の暖かい空気が流れ込みやすい(P12,P13参照)。	偏西風が北偏して流れるため、暖かい空気に覆われやすい(P12,P13参照)。

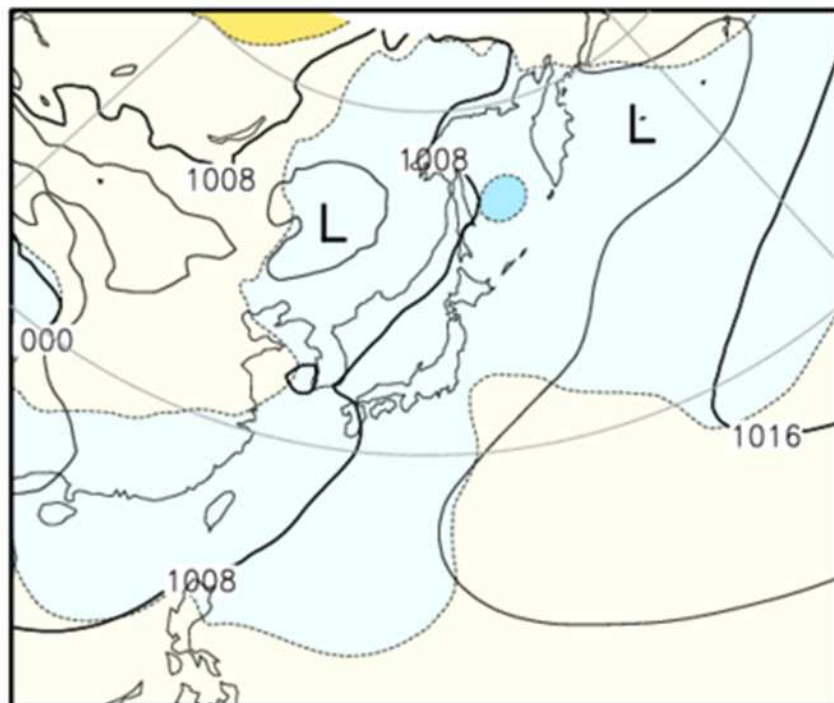
850hPa気温偏差時系列



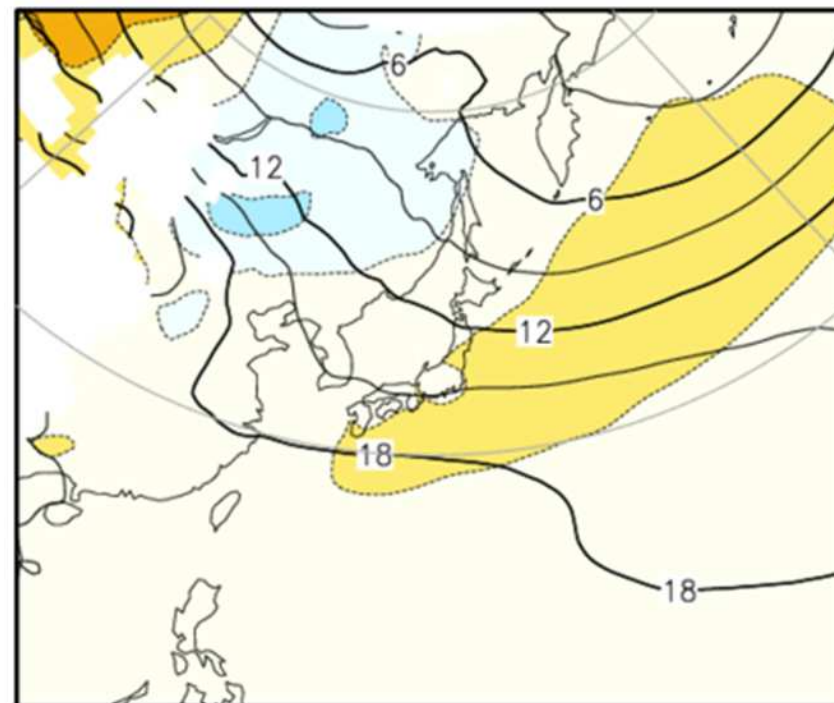
各週における天候のポイント(天気)

	1週目(5/30~6/5)	2週目(6/6~6/12)	3~4週目(6/13~6/26)
想定される天候(天気)	<p>北・東日本では、天気は数日の周期で変わりますが、低気圧や前線の影響を受けにくいいため、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。</p> <p>西日本と沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。</p>	<p>北・東日本では、天気は数日の周期で変わるでしょう。</p> <p>西日本と沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。</p>	<p>全国的に、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。</p>
根拠	<p>北・東日本では、低気圧や前線の影響を受けにくい。</p> <p>台風第6号及びその周辺の湿った空気の影響で、東・西日本太平洋側は多雨、沖縄・奄美は多雨傾向(P10-P13参照)。</p>	<p>全国的に平年と同様の天候(P10-P13参照)。</p>	<p>全国的に平年と同様の天候(P10-P13参照)。</p>

海面気圧(1か月)



上空約1500mの気温(1か月)

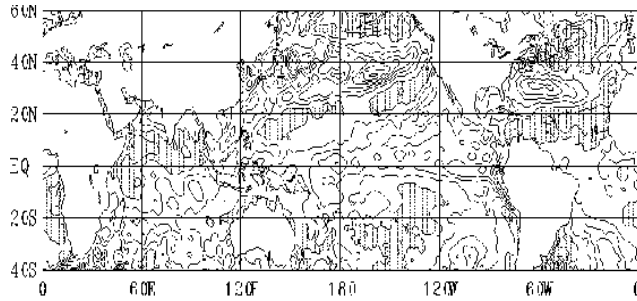


1か月平均の海面気圧(左図)では、日本の南東で高気圧が強く、東・西日本太平洋側を中心に高気圧の縁を回る湿った空気の影響を受けやすい時期があるでしょう。また、オホーツク海付近で平年より気圧が低く、暖かい空気が流れ込みやすい時期があるでしょう。

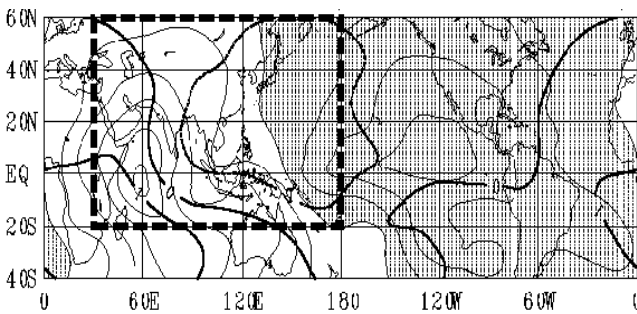
上空約1500mの気温(右図)は、日本付近で平年より高く、全国的に暖かい空気に覆われやすいでしょう。

予報資料の解釈(1か月) 熱帯循環場

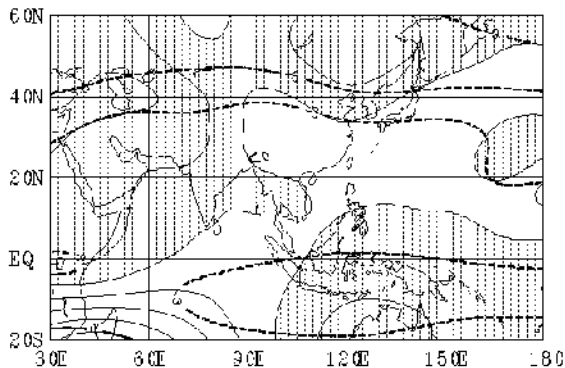
SST偏差



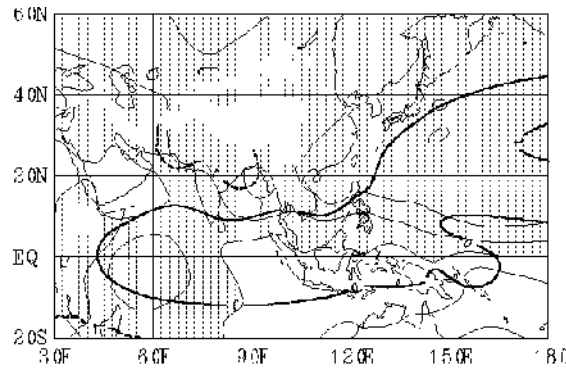
200hPa速度ポテンシャル



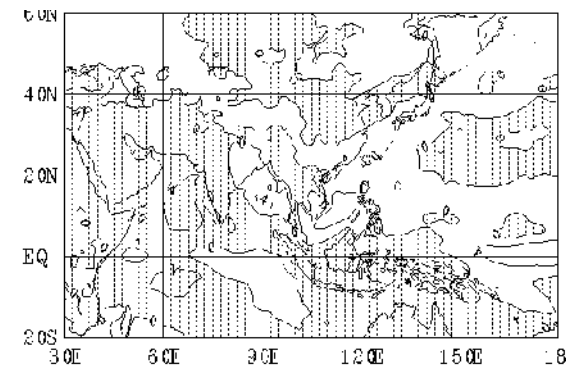
200hPa流線関数



850hPa流線関数



降水量偏差



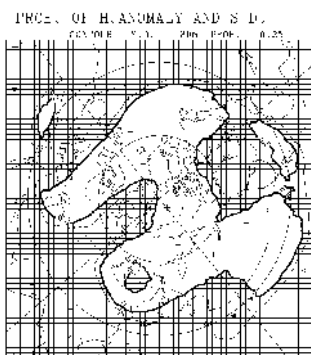
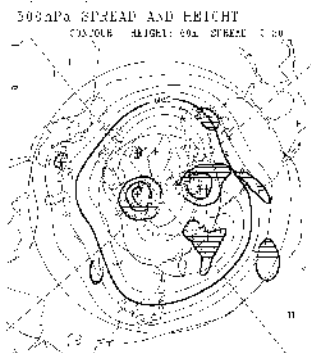
SST偏差は、太平洋熱帯域では中・東部を中心に広く正偏差。インド洋北部は負偏差。

200hPa速度ポテンシャルは、SST偏差に対応して、太平洋熱帯域で上層発散偏差、インド洋西部を中心にインドネシア付近にかけて上層収束偏差。

200hPa流線関数は、寒帯前線ジェット気流沿いの波東伝播の影響で、中国東北区付近は低気圧性循環偏差、日本の東で高気圧性循環偏差。

850hPa流線関数は、熱帯の対流活動に対応して、南シナ海からフィリピンの東で低気圧性循環偏差。

降水量は、南シナ海からフィリピンの東で多雨偏差。日本付近は、東・西日本太平洋側や沖縄・奄美で多雨偏差。

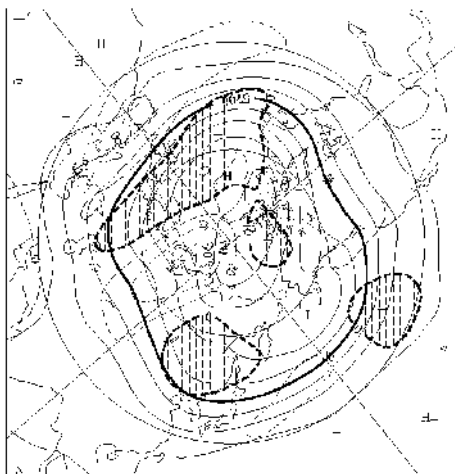


500hPa高度は、寒帯前線ジェット気流沿いの波束伝播の影響で、中国東北区付近で負偏差、日本のはるか東を中心に日本付近も正偏差。

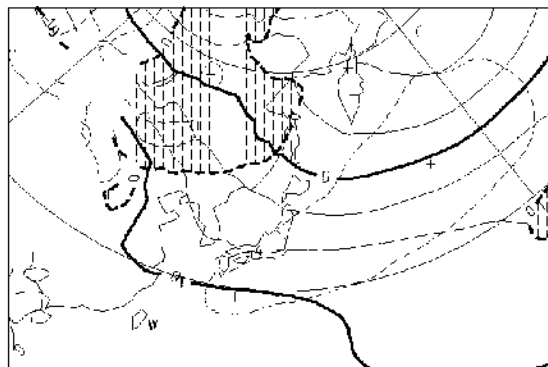
850hPa気温は、500hPa高度偏差に対応して、日本の東を中心に全国的に正偏差。

海面気圧は、日本の南東で高気圧が強く、東・西日本太平洋側を中心に高気圧の縁を回る湿った空気の影響を受けやすい時期がある。また、オホーツク海付近を中心に負偏差で、暖かい空気が流れ込みやすい時期がある。

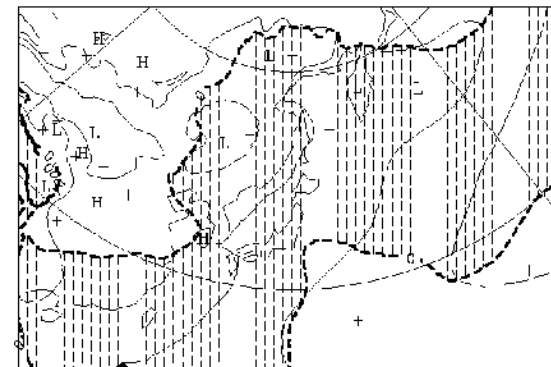
500hPa高度



850hPa気温

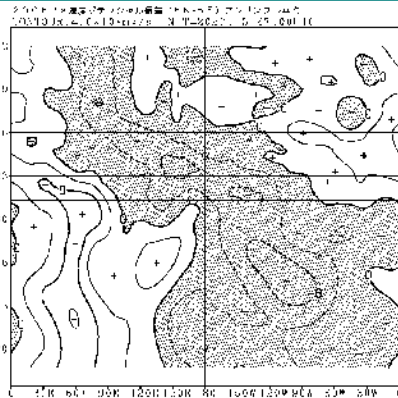


海面気圧



予報資料の解釈(各週) 熱帯の対流活動

200hPa速度ポテンシャル偏差時系列



200hPa速度ポテンシャルは、期間を通して太平洋中・東部で上層発散偏差、インド洋西部を中心にインドネシア付近にかけて上層収束偏差。

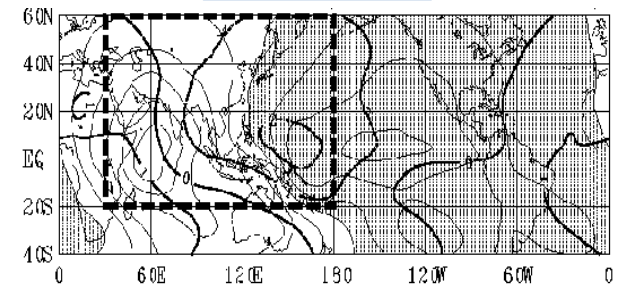
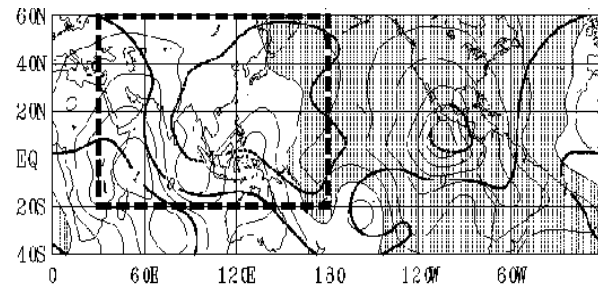
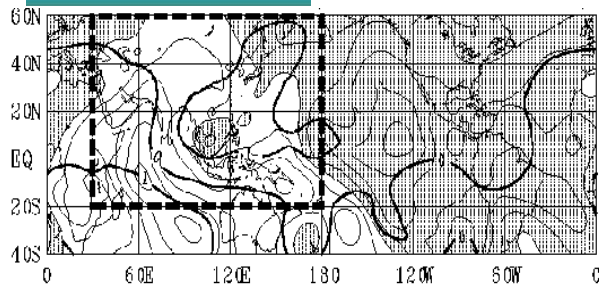
降水量は、1週目はベンガル湾、南シナ海、日本の南で多雨偏差。2週目はベンガル湾と南シナ海が多雨偏差が北進する。3～4週目は日付変更線の西で多雨偏差。

200hPa速度ポテンシャル

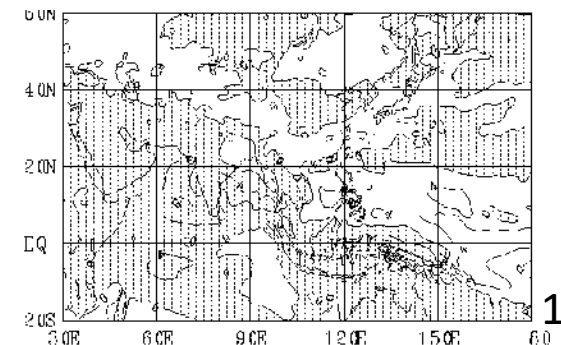
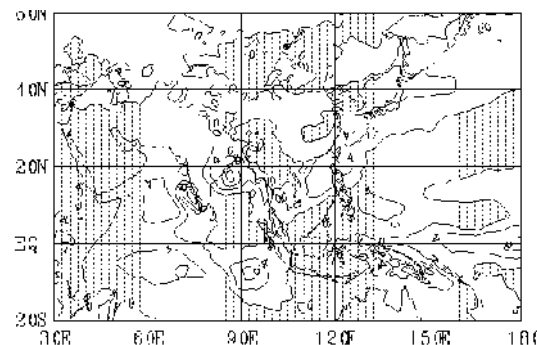
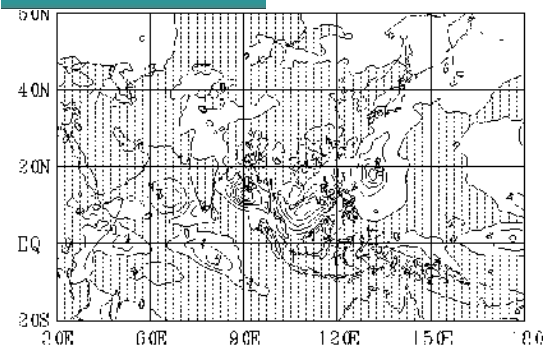
1週目

2週目

3～4週目



降水量偏差

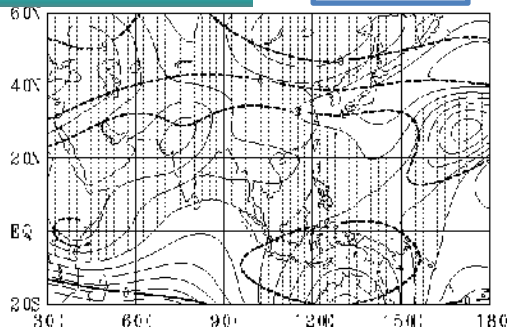


200hPa流線関数は、1週目は寒帯前線ジェット気流沿いの波束伝播の影響で、中国東北
区付近で低気圧性循環偏差、日本のはるか東から本州付近で高気圧性循環偏差。2週
目以降は亜熱帯ジェット気流沿いの波束伝播も予測され、日本の西で低気圧性循環偏差、
日本の東で高気圧性循環偏差の傾向が続く。

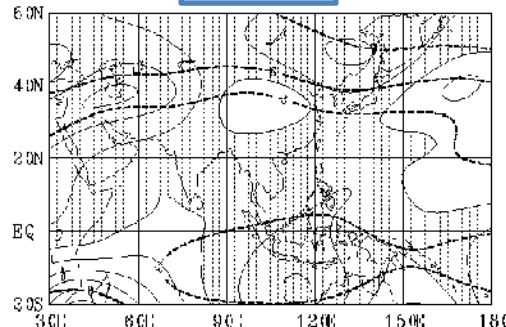
850hPa流線関数は、熱帯域の対流活動に対応して、1週目はベンガル湾とフィリピンの北
で低気圧性循環偏差。2週目はフィリピン付近の低気圧性循環偏差は不明瞭。3~4週目
はフィリピンの東で低気圧性循環偏差となる。

200hPa流線関数

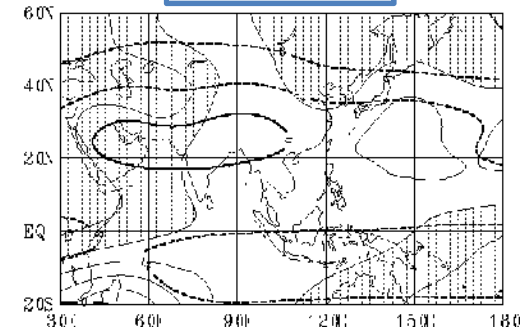
1週目



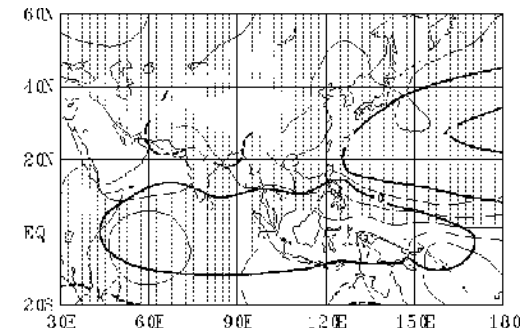
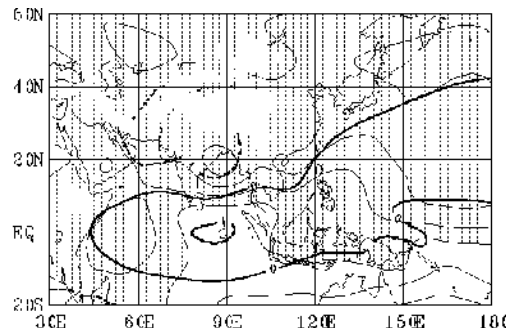
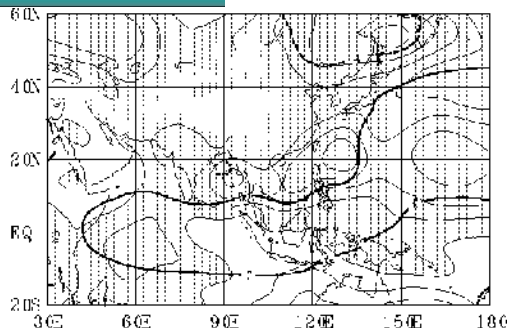
2週目



3~4週目



850hPa流線関数



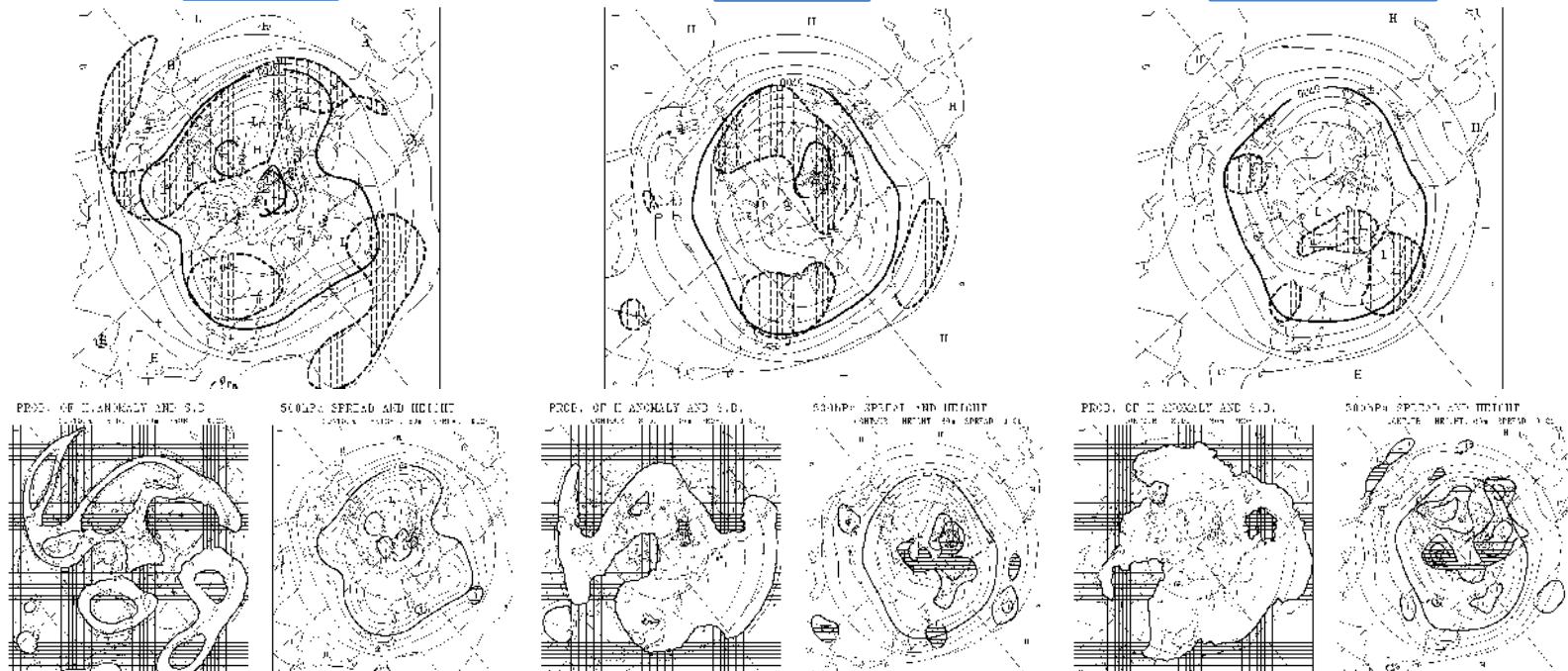
500hPa高度は、1週目は寒帯前線ジェット気流沿いの波東伝播の影響で、中国東北区付近はトラフで、日本付近は日本のはるか東のリッジからのびる正偏差に覆われる。2週目は日本海付近がトラフとなり、北日本付近には負偏差がかかる。また、北日本の東海上でスプレッドが大きく、北日本ではトラフに伴う寒気の影響に不確実性がある。一方、日本のはるか東から西日本以西は正偏差が続く。3～4週目は、日本付近は広く正偏差。

500hPa高度

1週目

2週目

3～4週目



予報資料の解釈(各週) 日本周辺循環場

850hPa気温は、500hPa高度偏差に対応して、1週目は日本付近は正偏差。2週目も東日本以西は概ね正偏差だが、北日本には負偏差域がかかる。3～4週目は、日本付近は広く正偏差。

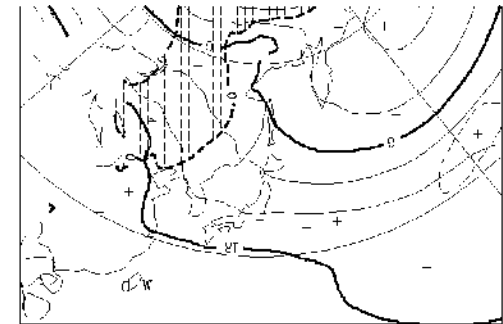
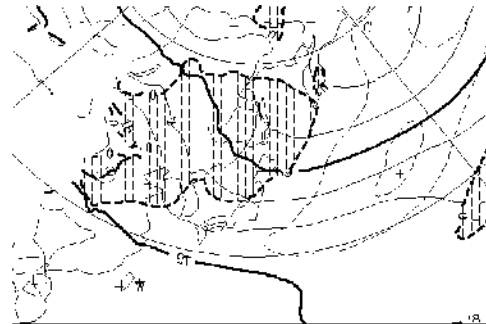
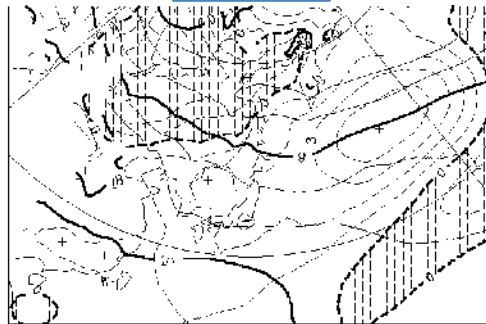
海面気圧は、1週目は日本の北で低気圧、日本の南で台風第6号が予測され、その間の本州付近は高圧部となる。北・東日本中心に低気圧や前線の影響を受けにくい。東・西日本太平洋側中心に台風第6号及びその周辺の湿った空気の影響を受ける。2週目は日本の東の高気圧が沖縄の南に張り出し、西日本中心に暖かい空気が流れ込みやすい。3～4週目は日本付近の偏差は小さいが、オホーツク海付近は相対的に気圧が高い。

1週目

2週目

3～4週目

850hPa気温



海面気圧

